

# 相談、交流の場がほしい

業者婦人実態調査は、家族従業員が要望するだけでなく、女性事業主の実態についても調査しています。

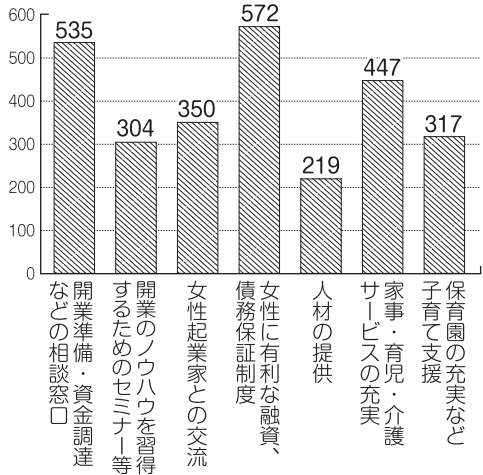
女性事業主の開業動機では「自分の能力を發揮したい」17・2%。「好きな仕事をした」23・0%など、得意分野を生かすなどです。

## 要求実現へ

全国業者婦人実態調査

### ⑥ 女性事業主

要望する女性事業主への支援策(3つまで)



かして起業しています。

女性事業主が要望する支援策としては「開業準備・資金調達などの相談窓口」20・1%、「開業のノウハウを習得するためのセミナー等」11・4%、「女性に有利な融資、債務保証制度」21・5%などです。

中小企業庁が12年6月に行った「ちいさな企業未来会議」では、小規模企業への支援について、これまで具体的に手を打てなかった反省と、政府の中小企業憲章に基づく施策が提案されています。安倍内閣の緊急経済

対策では、起業をめざす女性や若者に対し費用の一部を補助する「起業・創業支援策」を盛り込んでいます。また、12年の中小企業白書では、内需を掘り起こす、さまざまなサービス分野に力を発揮する女性起業家に着目しており、産業構造の変化の中で女性の視点を生かした雇用や事業の在り方に注目が集まっています。「買い物難民対策」や「農商工連携」など、地域の多様なニーズや新しい経営手法なども出てきています。こうした新しい社会的ニーズや大量生産・大量消費の経済・社会からの転換の中で、子育てしながらできる仕事や、特技を生かして社会の役に立ちたいと起業する女性たちが増えています。国や自治体は、中小企業の廃業率が開業率を上回る事態を深刻に受け止め、高齢化と人口減少社会の中で、持続可能な地域経済振興策と合わせ、起業や創業支援に力を入れるべきです。(おわり)

### 東京・荒川民商婦人部の民商婦人部 志賀綾子さん(43) エステサロン

東京・荒川民商婦人部の志賀綾子さん(43)は10年前、エステサロン「SALON DE A Y A Y A」を起業しました。環境や紫外線の問題など美容に影響する情報が飛び交う中、志賀さんは最新のエステ技術を習得するセミナーなどに出向き、腕を磨いていきます。

24歳のとき、初めてエステに通ったのがきっかけで、「私もやってみたくて、2年間の修行を経て、33歳で開業しました。「接客が好きで、自分を信じてやり続けている。経営がうまくいかないからといって、店をやめてしまったら誰にも信用されない。一度決めたら信念を貫くことが大切」と語ります。



お客さんとのコミュニケーションを大事する志賀さん

子どもを育てながら、現

## 好きな仕事で社会貢献

在では7人の従業員らと技術の向上をめざし、継承にも力を入れています。美容を追求するのはもちろん、内面の健康や心のケアも重視している志賀さんは、お客さんとのコミュニケーションを大切にしています。「安心して、なんでも話せる」とお客さんの口コミが広がり、10年間通い続ける人や遠方から来る人もいます。「女性が社会で活躍する中で、悩みを抱えて病になるケースが増えている。女性たちを内面から元気にし、幸せになってもらいたい」と女性起業家の役割に確信をもっています。